埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

# 復習シート 第三年 国語

| 組 | 番号 | 名前 |
|---|---|---|
| | | |

【「文学的文章の読解」の問題】

1　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

［ここまでのあらすじ］瀬戸内海に面した貧しい村に、若い女性の先生が赴任してくる。

「こんどの先生、なにいう名まえ？」

「大石先生。でもからだは、ちっちゃあい人。小林でもわたしはのっぽだけど、ほんとに、ちっちゃあい人よ。わたしのかたぐらい。」

「わあ！」

①まるでよろこぶようなそのわらい声をきくと、小林先生はまたきっとなって、

「だけど、わたしらより、ずっとずっとえらい先生よ。わたしのように半人まえではないのよ。」

「ふうん。そいで先生、船でかようんかな？」

ここが大問題というようにきくのへ、先生のほうも、ここだなという顔をして、

「船はきょうだけよ。あしたからみんなあえるわ。でも、こんどの先生はなかんよ。わたし、ちゃんといったもの。本校の生徒といきし[注1]もどりに出あうけど、もしもいたずらしたら、サルがあそんでると思っときなさい。もしなんかいってなぶ[注2]ったら、カラスがないたと思っときなさいって。」

「わあ。」

「わあ。」

みんないっせいにわらった。いっしょにわらってそれでわかれてかえっていく、小林先生のうしろすがたが、つぎのまがりかどにきえさるまで、生徒たちは口々にさけんだ。

「せんせえ。」

「さよならあ。」

「よめさあん。」
「さよならあ。」
小林先生はおよめにいくためにやめたのを、みんなはもうしっていたのだ。先生が最後にふりかえって手をふって、それで見えなくなると、②さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこり、一日のつかれも出てきて、もっそりとあるいた。かえると、村は大さわぎだった。
「こんどのおなご先生は、洋服きとるど。」
「こんどのおなご先生は、芋女とちがうど。」
「こんどのおなご先生は、こんまい人じゃど。」[注3]
そしてつぎの日である。芋女出でない、小さな先生にたいして、どきどきするような作戦がこらされた。
こそこそ、こそこそ。
こそこそ、こそこそ。
道々ささやきながらあるいていくかれらは、いきなりどきもをぬかれたのである。場所もわるかった。見通しのきかぬまがりかどの近くで、この道にめずらしい自転車が見えたのだ。自転車はすうっと鳥のように近づいてきたかと思うと、洋服をきた女が、みんなのほうへにこっとわらいかけて、
「おはよう！」
と、風のようにいきすぎた。どうしたってそれはおなご先生にちがいなかった。あるいてくるとばっかり思っていたおなご先生は自転車をとばしてきたのだ。自転車にのったおなご先生ははじめてである。洋服をきたおなご先生もはじめて見る。はじめての日に、おはよう、と、あいさつした先生もはじめてだ。みんな、しばらくはぽかんとしてそのうしろすがたを見おくっていた。
③ぜんぜんこれは生徒のまけである。どうもこれは、いつもの新任先生とはだいぶようすがちがう。少々のいたずらでは、なきそうもないと思った。
「ごついな。」
「おなごのくせに、自転車にのったりして。」
「なまいきじゃな、ちっと。」
男の子たちがこんなふうに批評している一方では、女の子はまた女の子らしく、すこし

ちがった見方で、話がはずみだしている。

「ほら、モダンガール[注4]いうの、あれかもしれんな。」

「でも、モダンガールいうのは、男のようにかみをここのとこで、さんぱつしとることじゃろ。」

そういって耳のうしろで二本の指をはさみにしてみせてから、

「あの先生は、ちゃんとかみゆうとったもん。」

「それでも、洋服きとるもん。」

「ひょっとしたら、自転車屋の子かもしれんな。あんなきれいな自転車にのるのは。ぴかぴか光っとったもん。」

「うちらも自転車にのれたらええな。この道をすうっと走りる、気色がええじゃろ。」

なんとしても自転車では太刀打ちできない。しょいなげ[注5]をくわされたように、みんながっかりしていることだけはまちがいなかった。なんとか鼻をあかしてやる方法をかんがえだしたいと、めいめい思っているのだが、なにひとつ思いつかないうちに岬の道を出はずれていた。宿屋のげんかんの柱どけいはきょうもまた、みんなの足どりを正直にしめして八分ほどすぎている。

④それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりをまいあがらせた。

（壺井　栄　「二十四の瞳」による）

（注１）行き帰り
（注２）からかってひやかしたら
（注３）小さい
（注４）今の世のはやりの女性
（注５）背負い投げ

問一　①「まるでよろこぶようなそのわらい声」とあるが、誰の、どのようなことを聞き、よろこぶように笑っているのか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 レベル６

ア　小林先生の名まえと異なり体が大きいこと
イ　小林先生の名まえと同様に体が小さいこと
ウ　大石先生の名まえと異なり体が小さいこと
エ　大石先生の名まえと同様に体が大きいこと

問二　②「さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこ」ったのはなぜですか。文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい（句読点は一字に含む） レベル９

問三　③「ぜんぜんこれは生徒のまけである」のはなぜか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 レベル７～９

ア　先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に感心したから。
イ　先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に驚かされたから。
ウ　先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に通用しなかったから。
エ　先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に逆に驚かされたから。

問四　④「それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりをまいあがらせた。」とありますが、この表現はどのようなことを表していますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 レベル７～９

ア　生徒たちの周りを、つむじ風が吹き抜けていったこと。
イ　生徒たちが、いっせいに家に向かって走り出したこと。
ウ　生徒たちの筆入の中身が、いっせいに足下に落ちたこと。
エ　生徒たちが、いっせいに学校に向かって走り出したこと。